

### 健康情報テレホンサービス

< 9月のテーマ >

通話料無料 (0120) 979-451

- 月曜日 妊娠とスポーツ
- 火曜日 特定健診とメタボリックシンドローム
- 水曜日 五十肩、四十肩
- 木曜日 耳鼻科で診る「めまい」
- 金土日 認知症老人への接し方

※テレホンサービスは、協会ホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>

## 保険医協会の共済制度 秋の受付開始!

格安の保険料と高配当が魅力! この機会にぜひご加入ください。

<毎月10日締切> (翌々月1日発足)

団体定期  
生命保険

# グループ保険

新規・増額  
加入受付!

- 断然安い保険料
- 最高5000万円の高額保障
- 配偶者1000万円のセット加入あり  
・現行800万円保障にご加入の皆さまも、1000万円増額申し込みをお願いいたします
- ライフプランに合わせていつでも増額、減額できます
- 断然高い配当金 昨年度は46%を配当金として還付
- 毎年高配当を維持
- 面倒な医師による診査はありません
- 必要保障額の見直しが容易な1年更新型
- 病気、事故、災害、死亡原因に関わらずご加入の死亡保険金額を保障

年金商品  
なのに  
自在性が  
魅力!

< 拠出型企業年金保険 >

## 保険医年金

医院経営で起こりうる、突然の資金需要にも柔軟に対応できます。

払込困難な時は掛金中断/急な出費は1口単位で解約/年金受給時に10年・15年定額型、15年・20年逡増型年金または一時金から選択/万一の時はご遺族に全額給付

- 月 払: 1口1万円 (通算30口まで)
- 一時払: 1口50万円 (毎回40口まで)

兵庫県保険医協会共済部 (☎ 078-393-1805)

【FAX返信】078-393-1802番

(切り取らずに送信いただきたい結構です)

『グループ保険』『保険医年金』加入予約申込

兵庫県保険医協会共済部宛

ご氏名		医療機関名	
連絡先住所	〒		
		電話 ( )	-

FAX着信次第、協会から連絡させていただきます。

## 兵庫県保険医協会

# 尼崎支部ニュース

302号

2009年9月5日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内  
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

感想紹介

尼崎支部総会記念シンポジウム

## 統廃合への不満根強い

尼崎支部は7月18日に尼崎労働福祉会館で、第38回支部総会と、記念シンポジウム「医療崩壊からの脱出～公的病院が地域医療に果たすべき役割」を開催。記念シンポには市民ら92人が参加した。支部新幹事になられた高田先生の感想文を紹介する。

邊見先生の講演は実におもしろかった、楽しかった、引き込まれた。

いきなり手話であいさつされ、会場の参加者をぐっとひとつに掴まれるや、官僚たちによって机上で作成された低医療費政策の結果崩壊した、わが国の救急医療、地域医療、大学の機能低下などについて、おもしろい話術と風刺の効いた論調で解説され、実にわかりやすかった。

今、日本の医療で何が、なぜ起きているかを、世界の先進国との対比を交え、会場の参加者にもわかりやすく話していただいた。視点の鋭さと論理の明快さに加えて、先生の人柄も伝わってきて心地よかった。講演の後段では、先生が赤穂市民病院で実際に実践されている、ボランティアの人々の活動を中心とした様々な取り組みを紹介されたが、医療崩壊からの脱却には、行政に頼らない自助努力しかないとの先生のメッセージが読み取れた。

県立塚口病院の統合再編問題では、尼崎市医師会長の高原周治先生、合志病院副院長の松本強先生、開業医の立場から綿谷茂樹先生が講演され、われわれの地元の大問題を反映して、講演後の質疑応答など参加者の熱気はすごいものであった。

8万筆もの市民の反対署名を無視し、統合再編検討委員会の議事録すらまともに開示しない行政に対する不満は看過できず、今後も事態を注視し、意見を集約し行政にぶつけていく必要を痛感した。

【高田循環器内科 高田 正】



県立塚口病院をどうすべきか全体で議論

県立塚口病院の存続と充実を求める会

# 病院存続で「地域医療守ろう」と一致

## - 尼崎市医師会と懇談

尼崎支部も加盟する「県立塚口病院の存続と充実を求める会」は8月20日、尼崎市医師会と懇談を行い、畠中正昭代表(協会評議員)、船越正信副代表(協会会員、尼崎医師協理事長)、宮田静則事務局長らが参加した。医師会からは高原周治会長、綿谷茂樹理事(副支部長)らが参加した。

冒頭に県の(県立塚口病院と尼崎病院の)統合再編検討委員会の地元委員を務める高原会長が、委員会での議論の様や進捗状況を説明し、医師会は塚口病院を尼崎病院の分院として存続させることを要望しているが、統合がやむを得ない場合は市内の中心部に機能が充実した県立病院の新設を提案していると紹介した。



(右から)医師会の高原会長、綿谷理事ほか

意見交換の中で、塚口病院が地域医療、特に阪神地域の救急医療に果たしている役割は大きく、機能面、施設面の充実が急務であり、「財政赤字だけがとりあげられ、地域医療への影響が一切議論されていないのはおかしい」という意見が相次いだ。



塚口病院の在り方についてざっくばらんに意見交換した

また、地域住民への説明が十分にされていないばかりか、8万筆の署名にこめられた地元の声が無視されている現状について、会は「地元の声を届けてほしい」と高原会長に訴えた。綿谷理事は「そもそも総務省が出した公立病院改革ガイドラインが発端で、国政の問題もある。今度の総選挙で候補者に強く訴えるべきだ」と呼びかけた。

### 支部ニュースへの投稿を募集しています!

日常の診療にかかわることや主張、書籍の紹介などテーマは問いません。地域色豊かな話題を尼崎の会員の先生方で交流したいと思います。

【FAX】 078-393-1802 【E-mail】 koma@doc-net.or.jp

尼崎支部担当 長澤・荒川・駒ヶ嶺 まで



## ▶ 阪急塚口駅前街頭宣伝

# 「病院なくなったら困る。頑張って」



「住民のいのちを守るために頑張ろう」と呼びかける自治会長

「県立塚口病院の存続と充実を求める会」は8月9日、阪急塚口駅前で集会を開き、約50人が集まった。宮田静則事務局長が運動の経過と、県の尼崎病院と塚口病院の統合再編検討委員会の進捗状況について報告した後、近隣の自治会長はじめ地域住民らが塚口病院の存続を求める訴えを行った。

ビラを受け取ったお年寄りや若い母親からは「なくなった困る。頑張って」と激励の声が寄せられた。

## 第427回 幹事会だより

8月28日(金) 於 立花・貴貴

- 尼崎支部の会員数と組織率  
8/27 現在 医科 377人 (82.1%)、歯科 126人 (49.0%)
- 医療をめぐる情勢と運動対策  
総選挙への取り組み、県立塚口病院問題等について意見交換した。
- 当面の支部活動  
医療安全管理講習会を10月に開催予定。
- 次回の幹事会  
9月25日(金)20時から園田・「王府楼」で開催予定。会員の先生はどなたでもご参加いただけます。お問い合わせはTEL 078-393-1803 長澤まで。